No.16

東京文化資源会議

［ティーチャ］

T-Cha

ニューズレター

東京文化資源会議
Tokyo Cultural Heritage Alliance

物語とまちあるきで地図のさらなる可能性を引き出す「地図ファブ」

神田祭ぶらりの成功 新たな地図の可能性を求めて

T-cha第1号で、地図の可能性を探究する「神田祭ラボ」の取り組みをご紹介した地図ファブPT。2年に1度開催される神田祭にあわせて、江戸・明治と現代の地図を行き来しながら、神田祭の巡行路にまつわる歴史や食の情報を体験できるアプリ「神田祭ぶらり」を開発しました。

「神田祭ぶらりの成功をもとに、地図のアーカイブと現代の文化資源の融合の可能性が見えてきた。協力先である三区文化資源地図協議会とともに、地図を面白がる新たなアプローチを模索していました」と、鈴木親彦さん（地図ファブPM）は話します。神田祭ぶらりを経て、次なる地図の可能性を探るテーマを探求することになりました。

地図で読み解く『帝都物語』

様々なアイデアが交差するなか、地図ファブメンバーであるKADO

NEXT PAGE

KAWAの玉置泰紀さんの「帝都物語はどうだろうか？」という提案が、一つの突破口となりました。

ご存じのとおり、『帝都物語』は1985年に出版された荒俣宏さんの小説で、帝都・東京を舞台に史実や実在の人物が物語に絡んだ作品です。関東大震災と神田明神が同作品の中でも重要なポイントとなっており、「1200年以上続く神田明神を取り巻く歴史がさらに深くなった作品。執筆のために、若かりし頃の荒俣さんが神田明神に通われていたことを思い出します」と神田明神宮司・清水祥彦さんは話します。

荒俣さんがこれまで蓄積した博物学や東京の地形、風水などを取り扱った同作品は、現実とフィクションが絶妙に組み合わさったもので、「東京という都市の破壊と再生であり、現実と虚構を複層的に併せ持った都市計画の物語」と語る玉置さん。地図は物語において重要な役割を果たしています。

Yukiko Katagiri ×

帝都物語という視点で新たに地図を読み解くという試みに踏み切った地図ファブPTメンバーは、荒俣さん本人登壇の2回のトークセッションとシンポジウムを開催、議論を重ねながら、収集した古地図やエッセイ・論考を掲載した冊子「帝都物語地図カタログ」を完成させました。

「地図を読み解くことの楽しさを伝えたかった。荒俣さんやトークセッションに登壇いただいた藤森照信さんのように、思想を持った方々の地図の読み解き方はとても面白い。読み解き方で言えば、冊子では作品に出てくる東京の『竜脈』の再現を試みたのだが、かなり怪しい……。おそらく、荒俣さんだけに見える何か、現実と虚構、思想の組み合わせから見えてくるものがあるのだと思う。私やメンバーにとっても、新しい地図の面白さを知る機会になった」

と語るのは、帝都地図カタログの作成に尽力した金沢工業大学の片桐由希子さん。カタログ作成を通して感じた、地図の読み解き方や物語によって地図に新たな文脈を築くことの可能性について触れていただきました。

Yasunori Tamaki ×

地形や人の営みをくみ取りながら、土地の霊や土地の力をもとに、小説を通じて現実や実空間に新たな文脈を構築する。小説という文化が、現実の地図を彩る一つの文化資源であることが実感されます。

崖東夜話でぶらりを楽しむ

帝都物語地図カタログの作成だけでなく、昨年、東京文化資源会議が主催した6つの精神文化・宗教施設らによる「崖東夜話」でも、地図を活用した取り組みが実施されました。

精神文化・宗教の存在に緩やかにふれる体験イベントや研究者、実践者らを交えたパネルディスカッションなどを通して、今の時代をいかに生きるかを考える同企画は、武蔵野台地の崖の東という地理的な固有性、そして異なる宗教施設の集積による多様性が、豊かな文化資源が育む土地だと気づかされます。

参画した神田明神の清水宮司は「異なる宗教同士の交流がそこまで多くなかったこともあり、互いの教義や考えを知る機会となってとても新鮮だった。同時に、宗教施設としての役割の新しい可能性の息吹を提示した」と企画を評していただきました。

Yoshihiko Shimizu ×

崖東夜話の肝である地理的な特色に着目し、それらを地図で可視化するとともに、崖東夜話に参画する各施設の歴史や社寺会堂PTのこれまでの活動をまとめた『江戸東京の精神文化』。地図ファブでは、その中に出てくる各施設に関連した文章を地図に配置し、ルートマップを掲載する「精神文化ぶらり」を開発。地域や歴史的な情報を盛り込んだ、「社寺会堂ぶらり」「崖東夜話ぶらり」とあわせて、崖東夜話が対象とする様々な文化資源を複数の地図を切り替えながら楽しむことができる仕様となりました。

「地図と崖東夜話というイベントを結び付け、地図上と書籍の中にある言葉を引用していく。地図を通じて崖の東という地形を体感するだけでなく、崖東夜話に関連するコンテンツを地図で楽しめるものになった」（鈴木さん）

地図アプリの開発のみならず、実際に地図を活用しながらまちあるきを行う「崖覧会」という企画も生まれました。帝都物語地図カタログでも、帝都物語の縁の場所を巡るまちあるきを実施しましたが、単発ではなく継続的な企画として立ち上がったのです。

Chikahiko Suzuki ×

『ぶらり』は、地図をただ見るのではなく、地図を片手にまちを歩く楽しさや、歩くことで生まれる発見、あえて道を間違うことの楽しさなどがある。デジタルではなくフィジカルならではの良さを体感できる」（玉置）

地図がもたらす新たな楽しさでまちを巡る

崖覧会を通して、地図のアプリで終わらず、実際に地図を活用してまちを歩くことで新たな地図の可能性を引き出す機会となりました。

「今の時代、スマホのデジタルマップで最短距離を検索して目的に向かうことが多いが、時にはデジタルの『ぶらり』を使いながら、ゆっくりまちを見ることで新たな発見につながる。寄り道の楽しみを見出してほしい」と、鈴木PMからこれからの地図ファブの展開や地図の可能性について触れていただきました。

私たちの生活に身近な存在としてある地図。現代だけでなく、過去からつながる地図という歴史の層を重ねることで、これからの未来に思いを馳せる。帝都物語のように現実と虚構が重なることで、地図と土地にさらなる物語が付与される。土地の複層性が、文化資源をより豊かにしていくことでしょう。

（記事構成：江口晋太朗　撮影：鈴木渉）

T-Cha NOW TOKYO PROJECT

**東京文化資源会議では、民産官学の様々な分野の専門家や実践者が集い、
東京の各地域で育まれている様々な文化資源をハード面・ソフト面から活用するプロジェクトを推進しています。
ここでは、東京文化資源会議全体の動向や各プロジェクトの近況をお知らせします。**

本郷PT 活動をまとめた冊子を発行

本郷地域を中心に、文化資源の記録や記憶をアーカイブする活動を行ってきた本郷のキオクの未来プロジェクトでは、この度、2017年から2020年まで行ってきた活動をまとめた冊子『本郷のキオクの未来2017-2020』を発行いたします。

これまで本プロジェクトが取り組んできた、地域に点在する貴重な文化資源である旅館や銭湯の記録をしてきた活動記録に加え、本郷地域の老舗店舗の御店主や地域の方らへインタビューを行う企画「本郷のキオクを語り聞く会」の特集記事などをまとめており、今はもう聞けない貴重な地域情報が満載の冊子となっております。

完成時期は改めてご案内させていただきます。完成した冊子は順次頒布しますので、入手ご希望の方は、東京文化資源会議事務局または本郷のキオクの未来プロジェクトまでお問い合わせください。

6施設で対話 崖東夜話 第二夜開催

湯島神田上野社寺会堂プロジェクトは、研究会をほぼ隔月にて開催してきました。現在は、昨年初開催となりました、文化資源区内の精神文化・宗教施設らによる合同企画「崖東夜話」の第二夜開催に向けて準備を進めています。

多宗教が共存する寛容な文化を育んできた湯島神田上野地域で、コロナ禍がもたらした新たな社会的な危機に対して、人びとの心の拠りどころである精神文化・宗教が果たしうる役割について語り合う本企画は、昨年の開催を通じ、参加された方々からも新たな試みとして企画の定期開催を期待されており、また、各施設の方々からも、普段なかなか交流の少ない施設が連携して開催することの意義を確かなものとしております。

10月22日に開催する第二夜では、第一部と第二部による二部構成となっています。第一部(午後1時半～午後3時半)のラウンドテーブルは「ポストコロナ社会の『やすらぎ』とは何か—新しい精神文化の役割」と題し、専門家や宗教家が学問や宗派の垣根をこえて一同に介し、ポストコロナ社会における人びとの精神性や、精神文化・宗教が社会に貢献する新たな可能性について考えます。会場は神田明神 文化交流館令和の間、ネット配信も実施いたします。

第二部（午後5時～7時）では、「やすらぎをもとめて—音のひびき2」と題し、6施設による同時開催にて、6つの文化・宗教施設を同時につなぎ、『音』を介して精神文化・宗教の存在に緩やかにふれる体験型のイベントです。コロナ禍によって私たちの会話環境は様変わりし、日常的な『音』の世界はコロナ以前と以後でほぼ断絶しています。声明や祝詞、鐘の音に象徴される精神文化・宗教の活動をかたちづくる変わらない『音』が私たちの心にもたらすものを感じることで、日常生活に内在する精神性や宗教性の意味を見つめなおす機会になれば、と考えています。

参加お申し込み、企画詳細は、崖東夜話公式サイト（http://gaitoyawa.jp/）をご覧ください。

秋葉原の歴史論争に活発な議論

広域秋葉原作戦会議プロジェクトでは、神田明神との共催で、トークイベント「秋葉原 歴史論争～The 延長戦～」を8月21日（土）に開催しました。

本イベントは、これまで放送してきたYouTubeライブ番組「広域秋葉原放送局 inしのばず中継」の初回（2021年4月5日）に放送された「秋葉原歴史論争」という回の続きとして企画されたもので、続きをぜひ開催したいという登壇者や関係各所からのご意見をもとに開催することとなりました。

イベントでは、YouTubeの50分の放送時間では語り尽くすことができなかった秋葉原の歴史について、語り尽くす場となりました。

登壇者は、YouTubeの放送に参加したメンバーに加えて、基調講演を真鍋陸太郎（東京大学）氏にお願いし、その後のラウンドテーブルでは、神田明神からは権禰宜の加藤哲平氏が新たに参加し、秋葉原の起源や歴史、戦後の秋葉原が電子パーツを扱う街から、いかにしてオタクの街へと変貌したか、これまでの歴史を踏まえた、今後の秋葉原の行方など、様々な観点からの議論が交わされました。また、当日は来賓として樋口高顕千代田区長にもご挨拶をいただき、秋葉原のこれからを議論している様を知っていただく機械となりました。

イベントの最後には、会場からの質疑応答の時間も取られ、秋葉原に関わる様々な立場の方から質問やコメントが出るなど、活発な議論が行なわれたイベントとして、盛況を迎えることができました。これらの活動を踏まえながら、秋葉原のこれからについての提案や議論の場を引き続きつくっていきたいと思います。

コロナ禍を経てこれからの上野 調査で深掘り

上野公園の夜間活用を含めた地域連携を推し進める上野ナイトパークコンソーシアムでは、コロナ禍において、当初想定していた実証実験や企画が思うように実施できなかったものの、限られた状況にてナイトミュージアムツアーやポッドキャスト配信など着実な活動を展開してまいりました。

依然としてコロナ禍による先行きの不透明さがありつつも、上野ナイトパークコンソーシアムとしては、これまでの活動の振り返りや、関係各所との連携強化を図ってまいります。そして、本年度は2019年に提言した「上野ナイトパーク構想」を踏まえた次なる具体的な構想提案のためのアップデートを図るため、関係各所らへのヒアリングや上野公園のニーズ調査などをもとに、上野公園の可能性や今後のあり方について深く検討していくこととしました。

ポストコロナ社会を踏まえ、新たな文化資源区のあり方と並行しながら、上野を中心としたまちづくりについて考える機会にしたいと思います。

T-Cha NOW TOKYO PROJECT

文化資源区の先 旨味都市構想 シンポ開催

東京文化資源会議では、設立と同時に発表した『東京文化資源区構想報告書』（2015年5月）の提言内容に沿って、これまで各種プロジェクトや関連イベント活動を約6年間にわたって展開してきました。その成果を踏まえて、さらに今後の発展を期すべく、当初想定した東京都心3区（千代田区・文京区・台東区）の枠を超えた全国的な文化資源活用とそのための制度改革を視野に入れた構想『旨味都市の文化創生―列島ビジョン2030』を2020年11月に策定いたしました。

そこで、これまでの東京文化資源会議の活動成果を踏まえつつ、同構想に盛られた「旨味都市」の内実とその可能性を議論し、ポストコロナ期の日本の文化資源活用の展望を開いていく出発点にしたくため、11月26日に東京文化資源会議主催シンポジウム「ポスト五輪・ポストコロナの東京ビジョン―旨味都市の文化創生」を開催いたします。

本来ですと、本シンポジウムは5月5日のひじりばし博覧会にて開催予定でしたが、新型コロナウイルス蔓延に伴い、ひじりばし博覧会は中止となったことにより、シンポジウム単独にて日時を改めての開催となりました。

基調講演に吉見俊哉東京文化資源会議幹事長、パネルディスカッションでは、伊藤滋東京文化資源会議会長、高野之夫豊島区長、グランドレベル代表 田中元子氏、カルチャースタディーズ研究所代表 三浦展氏らをゲストに、ポストコロナ社会における東京ビジョンについて議論いたします。感染対策を十分に行い、会場を御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターにて開催いたします。参加費は無料。ぜひ、奮ってご参加ください。

編集後記

春から、スマートウォッチに記録されるカロリー消費を毎日達成するために、散歩時間を増やしています。真夏でも、日が沈んでしばらくすると意外と歩きやすい気温になっていました。いまは夜遅くだと少し肌寒く感じることもあります。この散歩ルート、私は表通りを歩くことはあまりなく、多くの時間を裏通りで歩きます。車通りが少ないのが気持ち良いというのもありますが、裏通りは地域で生きている人々を身近に感じ、またそこで創造される文化を五感で見つけることができます。季節も良くなってきました。少し長めの休憩をとって、一本裏の道にふと寄り道してみませんか。秋の季節の生活や文化に出会えることでしょう。（陸）

こんなにも、住んでいる地域から離れず生活するようになるとは思いもしませんでした。最近では、昨今のサウナブームも相まって、銭湯に通う人も増えてきたとか。私も、以前にも増して銭湯に通うようになりました。江戸時代から続く銭湯は、公衆衛生としての機能だけでなく、今出は地域における文化資源の一つであり、日々の生活を豊かにするコミュニティとしての機能があり、銭湯の価値そのものが見直されつつあります。一方、経営者の承継問題も出てきており、銭湯の利活用提案や承継支援をする動きなど新たな世代が運営する銭湯もでてきています。都市の文化資源のなかでも、銭湯ほど身近なものはありません。心身の疲れを癒やすため、ぜひあなたも近所の銭湯に通ってみませんか。（江）

T-Cha

［ティーチャ］東京文化資源会議ニューズレター　No.16

渋み、旨み、味わいのある東京の文化資源的エキスを3ヶ月に一度、お届けします。

編集：東京文化資源会議広報委員会　デザイン：渋井史生(PANKEY inc.)　執筆：江口晋太朗(TOKYObeta Ltd.)

写真：鈴木渉　印刷・製本：スターツ出版株式会社　発行人：東京文化資源会議　発行日：2021年9月30日

〒110-0005　東京都台東区上野2-11-1藤井ビル3階　TEL：03-5244-5450　MAIL：info@tcha.jp　URL：http://tcha.jp/

T-Cha